|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ユースケース名 | | [UC08]仮想マシンのスナップショットを管理する |
| 目的（ゴール） | | 仮想マシンの状態を保存・復元・削除できるようにすることで、安定した運用やリカバリを支援する |
| アクター | | 利用者もしくはクラウド管理者 |
| 開始条件（起動トリガー) | | ユーザーがスナップショットの作成・復元・削除を操作する |
| 事前条件 | | 対象の仮想マシンが正常に動作していること ユーザーに必要な権限があること |
| 事後条件 | | スナップショットの作成、削除、または復元が完了している状態になる |
| 拡張点 | |  |
| 関連ユースケース | | [UC14]ログインする |
| イベントフロ｜ | メインフロー  （スナップショット作成） | 1. ユーザーが対象仮想マシンを選択し、「スナップショット作成」を選ぶ  2. ユーザーがスナップショット名とメモ（任意）を入力する  3. システムが仮想マシンの状態を保存する  4. 作成したスナップショットがスナップショット一覧に新しい項目として追加される |
| メインフロー  （スナップショットから復元） | 1.ユーザーがスナップショット一覧から復元対象を選択する  2. 確認後、システムが仮想マシンを選択時の状態に復元する  3. 復元完了後、仮想マシンがその状態で再起動される |
| メインフロー  （スナップショット削除） | 1.ユーザーが削除したいスナップショットを選択する  2.確認後、システムがスナップショットを削除する |
| 代替フロー |  |
| 例外フロー | 1.スナップショット作成時にストレージ容量が不足している場合 → システムはエラーを表示する  2.復元対象が存在しない、または破損している場合 → システムは復元不可エラーを表示する  3.仮想マシンが停止中で復元できない場合 → システムは状態確認を促す警告を表示する |
| 備考 | |  |